

# 特別会計・企業会計の決算状況

特定の事業を行う場合に、一般会計の歳入歳出と区別して会計処理をしたほうが望ましいときに、特別会計を設けています。

企業会計は、商店や会社などの民間企業と同じように、その事業で得た収入をもって支出をする独立採算制の会計で、地方公営企業法により設置するものです。

それぞれの平成26年度の決算は右表のとおりです。



## ◆特別会計

区分	歳入	歳出
国民健康保険	147.6億円	143.6億円
介護保険	107.5億円	105.2億円
後期高齢者医療	11.6億円	11.5億円
公共下水道事業	12.6億円	12.6億円
特定環境保全公共下水道事業	3.2億円	3.2億円
農業集落排水事業	0.6億円	0.6億円
漁業集落排水事業	4.4億円	4.4億円
浄化槽市町村整備推進事業	1.4億円	1.4億円
簡易水道事業	12.6億円	12.6億円
国民健康保険診療施設	1.7億円	1.5億円
歯科診療所	0.5億円	0.5億円
斎場事業	1.0億円	1.0億円

## ◆企業会計

区分	歳入		歳出	
水道事業	収益的収入	14.4億円	収益的支出	14.7億円
	資本的収入	0.4億円	資本的支出	7.1億円
病院事業	収益的収入	38.8億円	収益的支出	41.0億円
	資本的収入	1.8億円	資本的支出	3.8億円

平成26年度  
決算に基づく

# 市の財政状況

平成26年度決算に基づく市の財政状況を、各種指標などでご紹介します。

## お金の使いみちの自由度を示す指標

### 「経常収支比率」

**88.5%**

(県内各市平均90.9%)

市税や地方交付税などの収入に占める、人件費や公債費（借り入れたお金を返済するために支払うお金）、公共施設の維持管理経費など、常に支払う必要がある支出の割合です。

この数値が上がればあがるほど、お金の使いみちの自由度が少なくなっていき、新しい事業への対応がしづらくなっていきます。

## 市の“貯金”

### 「積立金現在高」

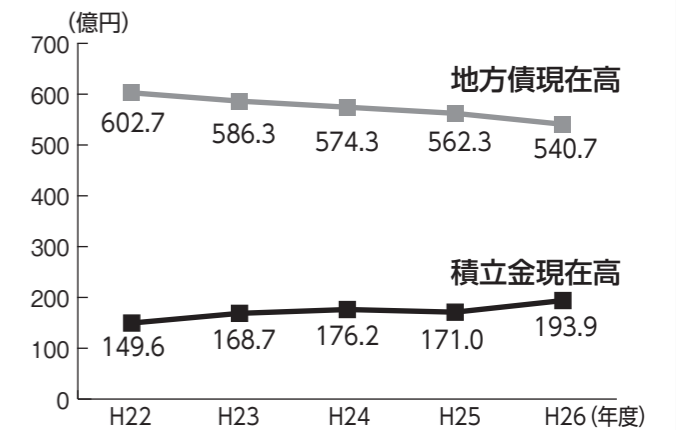
**193.9億円** (県内各市平均 87.6億円)

## 国や金融機関から借り入れた“市の借金”

### 「地方債現在高」

**540.7億円** (県内各市平均 502.6億円)

## ◆積立金現在高と地方債現在高の過去5年間の推移



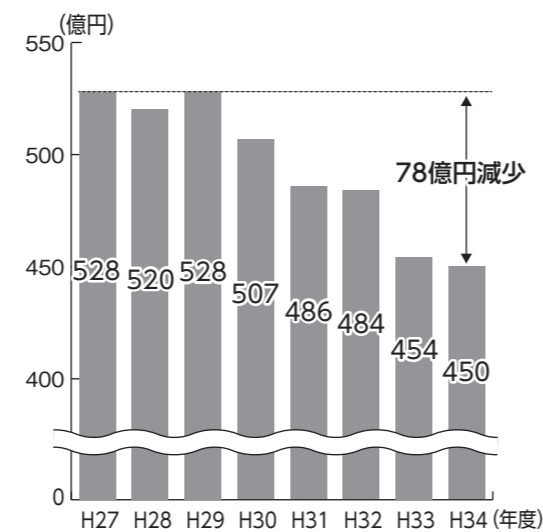
## 今後の財政予測

### 予算規模は平成34年には450億円に減少 さらなる行財政改革に取り組む

市では、財政健全化の方策や今後の歳入歳出額（予算額）などをまとめた“財政健全化計画”を策定しています。同計画で試算している一般会計の予算規模は、普通交付税（国から交付されるお金）の縮減などに伴い平成29年度をピークに縮小。同34年度には450億円になると試算しています（右グラフ参照）。一方で、市庁舎建設などの大型事業の実施、地方創生に向けた少子高齢化対策や雇用創出、公共施設等の老朽化による改修など、今後も多くの予算が必要になります。

公共施設の統廃合などさらなる行財政改革に取り組む、市民の皆さんがいつまでも住み続けたいと思う天草市づくりを進めていきます。

## ◆予算額（一般会計）の推移



## 財政の健全度を示す指標

### 「健全化判断比率」

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく財政の健全度を示す健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおりです。いずれも早期健全化基準、財政再生基準を下回っています。

指標	説明	天草市	早期健全化基準	財政再生基準
健全化判断比率				
実質赤字比率	一般会計などの赤字の大きさを表したものの。	赤字なし (黒字額15.4億円)	11.65%	20.00%
連結実質赤字比率	一般会計のほか特別会計や企業会計を含めたすべての会計の赤字の大きさを表したものの。	赤字なし (黒字額73.9億円)	16.65%	30.00%
実質公債費比率	収入に対する一般会計などの借入金返済額の割合。この割合が高くなるほど資金繰りが悪くなっているということになります。	9.8% (H25年度は10.5%)	25.0%	35.0%
将来負担比率	収入に対する一般会計などの借入金や、将来に支払う可能性がある負担などの割合。この割合が高くなるほど、将来、財政を圧迫する可能性が高いということになります。	36.2% (H25年度は53.6%)	350.0%	—
資金不足比率	病院事業や水道事業など公営企業の財政の健全度を表したものの。	資金不足なし	20.0%	—